

「きざし」テーマに最多77組

ビエンナーレ 近江八幡で9~11月

ビエンナーレに参加する井上さん（左端）や長谷川さん（右端）＝東京都中央区日本橋の「こ」滋賀で



第八回国際芸術祭「BIWAKOビエンナーレ」が九月十五日～十一月十一日、近江八幡市で開かれる。二年に一度の開催で、旧市街の古い町家を中心とする十二カ所に、国内外の作家七十七組が現代アートを展示する。主催する地元NPO法人エナジーフィールドが九日、東京・日本橋の県アンテナショップ「こ」滋賀で発表し、同市出身のガラス作家井上剛さん（四七）ら参加作家六人が抱負を語った。

（松村裕子）

国内外作家が現代アート展示

フランスやフィリピン、台湾など海外の約二十組を含め、参加作家は過去最多。華やかな花がこれから咲くイメージ「きざし」をテーマに据えた。町家の土間や居間、倉を使い、二人で同じ空間に作品を展示するコラボや、音楽と合わせた展示も試みる。

井上さんは、日本画家の長谷川早由さん（三〇）＝東京＝と町家でのコラボを計画。「光を散らす空間づくりができた」と語る。

インスタレーション作家田中誠人さん（三〇）＝東京＝は、もろみ倉に直径三・六メートルのサッカーボール形の体験型作品を構想。「光の不思議さを感じてほしい」と話した。

総合ディレクターの中田洋子常務理事（六〇）が二〇〇一年、出身地の津市で企画したのが始まり。当初は三年に一度で、二回目から会場を近江八幡市に移した。空き家だった町家や商家を使ったことが、店舗や住宅としての活用につながった。

中田さんは「街の散策や、古い建物の見学などいろいろな楽しみ方ができる。広く一般の人に来てもらい、地域を活性化したい」と語った。首都圏からの来場を促そうと、初めて東京で会見した。過去平均の延べ三万人を超える来場者を目指している。

前売り券は一般二千円、高校・大学生など千三百円で、ネットで販売している。事務局 〇七四八（三六）3766